

## 第4回 川越市まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会 議事要旨

**1 開催日時** 平成27年10月26日（月）午後3時30分～午後4時50分

**2 開催場所** 市役所7階7AB会議室

### **3 出席者**

立原雅夫、木村啓子、吉野郁恵、近藤芳宏、今野英子、小野澤康弘、樋口直喜、牛窪多喜男、山木綾子、小林薫、高橋五江、吉田善一、荻野貴、高橋巧、千葉三郎、本田倫江、斉藤重教、森田浩の各委員

### **4 会議の概要**

#### **1 開会**

#### **2 会長挨拶**

前回の会議では、川越市人口ビジョンと川越市まち・ひと・しごと総合戦略について貴重なご意見をいただいた。今回は前回に引き続き、総合戦略について審議していきたい。審議する機会も残り僅かであり、闊達な議論をお願いしたい。

#### **3 議事**

##### **(1) 川越市まち・ひと・しごと創生総合戦略（原案）について**

事務局から配布資料の確認と資料に基づく説明を行った。

配布資料に関連した質問等及び意見交換については次のとおり。

##### **【意見の概要及び質疑応答】**

- 世界標準に合致していないため、東京オリンピックで日本産食材が使用できない恐れがあることを市も認識したようだ。この先、世界標準に合わせるということになると、学校給食等にも関わる問題である。国の動向を見守るだけでなく、川越市として食材のあり方について研究していってほしい。
- 現状は妊産婦の相談を待っている状態であるが、母子手帳交付の際などに問題を抱えている母子を把握できるようにした方がよい。
- プロジェクト5の『すくすくかわごえ』の関連施策『地域における保育環境等の充実』で人形劇等の観劇会とある。人形劇に限定せず、良質なものを提供して欲しい。
  - ・観劇以外のものも含め、良質なものを提供していけるよう検討したい。
- 幼少期に本に触れ合うことは大事なことと考える。プロジェクト5『すくすくかわごえ』の中で『子育て安心施設の整備』とあるが、同施設に幼児図書を扱う図書館があれば、子育て施設の利用者がわざわざ図書館へ行かなくても済む。利便性の面から是非検討してほしい。
  - ・幼児図書館とまでいかなくとも、親子が集まるような場所に図書のスペースを設置

するといったことも考えられる。具体的にどの場所に整備できるかということも含め、総合戦略を実現する中で検討していきたい。

- 子育て世代や若者に対する支援も良いが、現実的に高齢化が進行していく中では高齢者に対する考え方も総合戦略に反映した方が良いのではないか。
  - ・若者に重点を置いた戦略としているため、高齢者に対する視点が弱い面があることは認識している。ただ、プロジェクト5の『すくすくかわごえ』の中では、高齢者を対象とする地域包括支援センター以外にも、健康教育・健康相談という機能を持たせることを想定している。高齢者が利用する形態を考えており、機能の詳細については制度設計の中で検討していく。
- 100歳を超えた高齢者でも、筋肉を育てることで、脳を活性化させることができるという研究報告がある。高齢者の筋肉を鍛えることは、転倒防止にもつながる。こういったことも研究して市の発展につなげて欲しい。
- 今の70代は昔と比べて、精神的にも肉体的にも10歳ほど若いという報告がある。ところが、例えば運転技能などは個人的に問題ないと思っても、社会的には年齢で制限がかかってしまう。
- 障害者には欠格条項というものを理由に就けない職業があったが、今は、障害に応じた適切な対応が取れば医師等へも就業できるように改善されている。高齢者の場合で言えば、命を預かる職業としてパイロットが挙げられるが、今その年齢制限がどんどん引き上げられている。車の運転も、年齢で一律に制限をかけるのは現状に合っていない。「しっかりと検査をした上で、能力があれば認める」というような方針が出せれば、この会議も非常に有意義なものとなる。
- シルバー人材センターは高齢者が働く受け皿となっはいるが、高齢者の仕事は駐輪場の整理など単純作業ばかりで、培った能力を活かす場がない。一方で知識を活かす職場もあるにはあるが、これまでの職務経験とは合致しない高齢者も多い。高齢者が社会に貢献できるように、技能習得をサポートする考えがあっても良い。
  - ・総合戦略における国の基本目標自体が、高齢者の視点から若干離れていると感じる。高齢者の健康需要に対応した考え方があっても良いと思うが、新たな施策としてプロジェクトを立ち上げるのも難しい。現状のプロジェクト5『すくすくかわごえ』の中に高齢者に対する視点があるので、具体的施策の中に何らかの項目立てが出来るか検討したい。
- 10ページに国の総合戦略の基本目標が記載されているが、④「時代に合った地域をつくり～」というのは、高齢者の能力を活用することにつながるのではないかと考える。高齢者の知恵や経験を活かして若い人たちに伝えることが、「時代に合った地域」をつくることになる。
- 戦略3の『川越を活かす 地域の価値を高め、魅力あるまちをつくる』の記載の中に、「高齢者の経験を活かして魅力あるまちづくりに貢献してもらおう、若者にも活かしてもらおう」といった内容の表現が入れば、今まで出た高齢者に対する意見を踏まえた形になると思う。
- 同感である。『すくすくかわごえ』は子育てに関するプロジェクトであり、高齢者を

位置付けるのは無理がある。戦略3のまとめの中で「高齢者が社会の中で重要な人材として活躍できるまち」というニュアンスを加えれば良いのではないか。

- 高齢者に関する記載については、若者の「働く」、「暮らす」といった取組に高齢者の能力を活用して活性化するという内容で、どこか適当な場所に文言を加えてもらえれば良い。
- 若い人が川越で働きたいと思っても、実際に働くにあたっては、非正規雇用の問題や、正規社員であっても労働条件が劣悪な会社などがある。「川越には労働条件が劣悪な職場はない、良好な労働環境である」といったことを目指すような視点があっても良い。
  - ・職場環境の関係については、プロジェクト3『しごと暮らし川越』の中で『多様な働き方の支援』という施策がある。一定の優良企業や先進的な企業を表彰することで、川越の企業のイメージを上げることが出来るのではないかと考えている。
- 今の若者は「社会貢献度の高い企業」に魅力を感じるようになってきている。具体的な施策の中で、社会貢献活動をしている企業に対する支援や、そうした活動をしている企業を若者に発信していくことを付け加えても良いのではないか。
- 今はものづくりの場がインターネットに移っている。今までは工場でものづくりを行うという形態が中心だったが、今は田舎でも仕事出来る時代である。川越でも、インターネットを促進して海外に販路を広げるという考えがあって良い。
- 確かに若者の価値観は変わってきていると感じる。積極的にボランティアに参加する者も多い。また、インターネットも非常に上手く使いこなしており、これが地方の町でも根付いて来れば都市間の差も無くなるのではないかと思う。可能であれば、こういった視点も総合戦略に加えて欲しい。
- この総合戦略の実効性はどのように担保するのか。単にアドバルーンのように戦略を打ち上げて終わりということにならないか。予算措置など具体的なものを作っていく予定があるのか。
  - ・総合戦略を実際に進めていくにあたっては、3か年の実施計画や予算につなげていくことになる。
- 総合戦略では若者を呼び込むということが考えられているが、一言で若者とまとめても、引きこもりや非正規で困窮している若者もいる。そこへの対応を考えない限り、川越の若者の未来へとつながっていかない。
  - ・現在、平成28年度を始期とする10か年の第四次川越市総合計画を策定しており、市の全般的な取組みについてはそちらに記載している。総合戦略については人口減少対策やまちの活性化という視点での施策を打ち上げていこうというもの。総合戦略の取組だけを実施するのではなく、総合計画と連携してそれぞれ実施していくものである。

## (2) その他

### ①答申について

- ・審議会の結果として市長への答申を予定している。答申について審議会の意見を伺

いたい。

**【意見の概要及び質疑応答】**

○人口ビジョン及び総合戦略原案をもって答申とし、答申書の冒頭には総合戦略に対する審議会からの提言・思いを述べる欄を設けたい。

なお、今までの審議会の意見を踏まえ、会長と副会長、事務局で案をつくり次回の審議会に諮ることしたい。

○10月10日から11月9日までパブリックコメントを実施していると把握しているが、その結果についてはどのように考えているか。

・パブリックコメントの内容については次回の審議会で提示する。

②次回の会議について

次回の会議日程については現在調整中であり、正式に決まり次第、後日通知させていただきたい。

**4 副会長挨拶**

木村副会長が、閉会に当たり挨拶を行った。

**5 閉会**

以上